

令和 3 年度  
公立高等学校入学者選抜

問 題

国 語

(第 1 時 9 : 05 ~ 9 : 55)

第一 問 次の問いに答えなさい。

問一 次の文の——線部①、⑥のうち、漢字の部分はその読み方をひらがなで書き、カタカナの部分は漢字に改めなさい。

・ 級友と約束を交<sup>①</sup>わす。

・ 知人に道案内を頼<sup>②</sup>む。

・ 前年の形式を踏襲<sup>③</sup>する。

・ 太陽の光を全身にア<sup>④</sup>びる。

・ 人生のタ<sup>⑤</sup>ビジを歩む。

・ 委員長としてのセ<sup>⑥</sup>キムを果たす。

問二 次の文の——線部①、②のカタカナを漢字に改めたものとして、正しいものを、それぞれあとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

・ 入場者の数をキ<sup>①</sup>セイする。

ア 省      イ 制      ウ 製      エ 精

・ 大会に参加するイ<sup>②</sup>コウを関係者に伝える。

ア 光      イ 行      ウ 降      エ 向

問三 次の□に共通して入る言葉を、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

□が回る      □先三寸      □の根の乾かぬうち

ア 首      イ 目      ウ 口      エ 舌

問四 Aさんの中学校では、三年生がクラスごとに校内に花を植える緑化活動をしています。Aさんのクラスでは、クラスで植える花を決めるために、グループごとにプレゼンテーションを行うことになり、Aさんたち四人のグループは、花言葉に着目して植える花を提案することを思いつきました。次は、Aさんたちが行った【話し合いの一部】と、プレゼンテーションで使うための【進行案】です。あとの(一)～(五)の問いに答えなさい。

【話し合いの一部】

〈Aさん〉 いろいろな花の候補があがったけれど、もつとクラスにぴつたりの花はないかな。① みんなから支持してもらえような花を提案したいよね。

〈Bさん〉 「イッチ」という花言葉をもつ「芝桜」はどうか。② 「イッチ」とは、「一致団結」の「一致」のことだよ。小さな花が仲間も花言葉も、私たちのクラスにぴったりだと思うよ。

〈Cさん〉 うん、「一致」という花言葉はクラスにぴったりだね。まともりがあって仲のよいところが、私たちのクラスのよいところだ③ と感じていたから、私も芝桜がいいと思うな。

〈Dさん〉 私もよい提案だと思うのだけれど、芝桜は他の花と比べて花が小さいので、華やかさが足りないという意見が出るかもしれないよ。芝桜を提案するのであれば、花言葉以外にも芝桜を提案する理由を準備したほうがよいと思うな。

〈Bさん〉 確かにそうだね。たとえば、芝桜は比較的育てやすい植物だという点を理由に付け足せないかな。日当たりのよいところに植える必要があるけれど、乾燥や寒さにも強い植物で、手入れもそれほど難しくないよ。

〈Cさん〉 私の家では、芝桜が広がって根付く性質を利用して、庭に雑草が生えるのを防いでいるよ。理由として使えそうだよね。

〈Aさん〉 校門付近に芝桜を植えることも合わせて提案するのはどうか。芝桜は毎年花を咲かせるから、自分たちが植えた花を卒業後も見に来ることができるといふ提案になるよ。

〈Dさん〉 うん、芝桜を植える利点はいくつかあげられるね。花言葉に着目して芝桜を植えたいという提案に付け足せば、みんなからの共感を得やすくなりそうだね。

〈Aさん〉 それでは、説明内容を整理して、進行案を作ろうよ。  
〈全員〉 賛成。

クラスにぴったり！「芝桜」		
説明内容	提示資料	担当
Ⅰ 初めに ・提案理由の説明	〔スライド1〕 テーマと提案理由 ・テーマ ・提案理由	Aさん
Ⅱ 色々な花と花言葉 ・花言葉の説明 ・色々な花の花言葉	〔スライド2〕 花の写真と花言葉 ・候補にあげた花の写真 ・その花の花言葉	Bさん Dさん
Ⅲ 芝桜を提案する理由 ・花言葉「一致」 ・芝桜が咲く様子	〔スライド3〕 芝桜の写真と花言葉 ・芝桜の花言葉 ・密集して咲く芝桜の写真 ・肩を組み合うクラス写真	Bさん Cさん
Ⅳ 花言葉以外の提案理由 ・芝桜を植える利点	〔スライド4〕 理由として付け加えるもの ・提案を補強するための理由	Cさん Dさん
Ⅴ まとめ ・提案理由のまとめ	〔スライド3〕 ※再提示 芝桜の写真と花言葉	Aさん

(一) 【話し合いの一部】の中の①にあてはまる言葉として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア まるで      イ ぜび      ウ たとえ      エ もし

(二) 【話し合いの一部】の中に、「イッチ」とは、「一致団結」の「一致」とだよ。」とありますが、Bさんのこの発言における工夫を説明したものととして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 難解な言葉を理解してもらうために、類似する言葉を提示している。  
 イ 同音の言葉が多数あるため、熟語の漢字を一字ずつ確認している。  
 ウ 耳で聞いて分かりにくい言葉を、例を用いて理解しやすくしている。  
 エ 大切な情報を繰り返して、忘れることがないように念を押している。

(三) 【話し合いの一部】の中の「私もよい提案だと思うのだけれど、」で始まるDさんの発言が果たす役割を説明したものととして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 説得力のある提案をするためには、聞き手からの意見や反論を想定して準備する必要があるという内容を提起する役割。  
 イ 話し手が提示したいと思う内容であっても、反対されてしまう要素は削除するほうがよいということを提言する役割。  
 ウ 提案の内容で短所と思われる点も、資料の提示の仕方や説明の工夫次第では長所となるということを指摘する役割。  
 エ 提案しようとしている内容に問題点があるため、提案の内容を根本から見直した方がよいということを忠告する役割。

(四) Aさんのグループでは、提案の中心となるところに時間を多く割り当てて、プレゼンテーションを行うおうと考えました。Aさんたちが最も多く時間を配分しようと考えたのは、【進行案】にある説明内容のⅠ～Ⅴのどこか、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア Ⅰ      イ Ⅱ      ウ Ⅲ      エ Ⅳ      オ Ⅴ

(五) Aさんのグループでは、【進行案】の提示資料の欄にある「スライド4」として、次のア～エを準備しましたが、検討した結果、アの資料を用いることにしました。Aさんたちがアの資料を用いることにした理由を具体的に、三十字以内で説明しなさい。

- ア      イ      ウ

芝桜にはこんなよい点も

- 1 育てやすい！
- 2 雑草を防ぐ！
- 3 毎年花を楽しめる！

芝桜を植える利点について

芝桜は他の花と比べて手入れが簡単で、育てやすい花です。また、芝桜の広がって根付く点を利用すれば、雑草が生えることを防いでくれます。毎年花を咲かせるので春の楽しみが増えます。

ひと目で分かる芝桜のよさ

- ・花は小さいが、手入れが簡単。
- ・日当たりのよいところに植えば、毎年花をつける。



## 第二 問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

スポーツ誌『Gold』の記者、目黒明日香は、かつて同じスイミングスクールに通っていた幼なじみの綾瀬裕がオリンピック競泳代表選考会に出場することを知り、取材を兼ねて裕の応援に駆けつける。

台を蹴って飛び込む。数秒の潜水後、浮上して腕を掻く。裕は六コース。なめらかな泳ぎだ。パワフルでぐいぐい進む。座ってはいられず明日香は腰を浮かした。両手の拳を握りしめる。行け、速く、もつと、もつと。勝つても負けても終わりじゃない。でも勝ちたい。負けたくない。そこにこだわるからこそ一秒でも速く、一センチでも高く、遠く、記録は塗り替えられる。新しい技が生み出され、超絶プレイに磨きがかかる。それを前進とか進化とか言うのならば、惹かれずにいられない。人が前に進むようにできているのならば、むき出しの向上心に、畏怖や憧憬を持たずにいられない。DNAにそうすり込まれている。

「裕！」

夢中で声を上げた。オリンピックに行く。夢を叶えて。最後のターン。

裕がトップに出た。ほんのわずかだがトップ。速く速く。もつと速く。水を掴んで水にのって水を蹴る。歓声が真昼の太陽のようにプールを照らす。青い水が白く輝く。そのまばゆさに明日香は身をゆだねた。光を統べる、遠い頂からの力に同化する。なんでもできそう。どこでも行けそう。眠っていたものが一斉に目覚める。

ゴール。トップで壁に触れたのは裕だ。水からあがった頭が電光掲示板の方を向く。派遣記録突破。オリンピック代表決定。

裕の拳が真上に突き上げられる。場内は興奮のつぼとなり観客は総立ちだ。明日香は石渡と手を取り合い、涙を拭うことも忘れた。

優勝選手インタビューでは久しぶりに裕の声を聞くことができた。喜びが全身からほとばしっていた。片づけの手を止めて、明日香は思わず余韻に浸ってしまふ。また目の奥が熱くなる。

「目黒さん、おめでどうを言いに行ったらどう？ 感動の対面になるんじゃないの。写真に撮らせてよ」

石渡からもらったティッシュを涙をかみ、苦笑いと共に「いいえ」と断った。観客はあらかた退出し、メディアブースの人も減った。プールサイドでは用具の片づけ作業が始まっている。

「今日の報告をしなくてははいけませんし、私も自分の仕事を頑張るのみです」

「目黒さんの仕事？」

そこで首を傾げないでほしい。「あのですね」と言いかけて、たくさんの顔や言葉が浮かんだ。

Goldへの異動を言われたとき、スポーツへの苦手意識はどうしようもなかった。一事が万事、勝つか負けるかで色分けされ、華やかな勝利の陰で脱落していく人が大勢いる。しのぎを削り、順位を競い、多くの夢が砕け散る。スポーツを応援する人にしても、勝てば嬉しいのはよくわかる。でも負けが続いたり、最良の選手が引退したり、不祥事を起こしたり、チームそのものが解体したりと、大なり小なり失望や落胆がつきまとう。心折れたりしないだろうか。

理解できずにはいたけれど、もしかしたら勝ち負けにこだわっているのは自分なのかもしれない。負けたらおしまい、夢は破れると、いつしか思い込んでいた。つらくて苦しいことを強いるスポーツに対して、不信感を募らせていた。けれどプロ野球の山川選手とのやりとりを思い出せば、勝つても負けても経歴値を積んでいるのだ。いつかどこかでそれが生かされる。現役時代でなくても、スポーツの世界でなくても。男子バスケットで活躍した場合はトレーナーになり、プロレスラーになれなかった定食屋の店主は不屈の魂で今の店をオープンさせた。負けて終わりではなく、道は続いている。

その道の上で、勝利は一番星のように輝く。あまりにも眩しくて疎外感すら覚えてしまったけれど、きつとちがう。遥か彼方だけでなく、光の粒は自分の中にもある。だからこんなにも引きつけられる。まるで恋をしているみたいに。

「私はスポーツファンに期待されるスポーツ誌で、期待に応える記事を書くんですよ」

「ほう」

「石渡さんのおっしゃった言葉の意味も、少しわかってきました。負けを卑下することなく、勝って輝くものに素直な称賛をおくりたいです。眩しいものは眩しい。多くの人の心を照らす。その尊さを美しい形で留めておけるのは雑誌です」

少しおどけて胸を張ると、石渡は目を細め、「頑張つてね」とうなずいた。「いろんな人が、いろんな場所から見上げている星だよ。大きいのも小さいのもある。その魅力を十分に伝えてくれたなら、ほくとしてもとても嬉しい。期待してるよ」

会場で出会った美濃部選手のコーチも「とても嬉しい」と言っていた。教え子の素晴らしい泳ぎを見たときの率直な感想だ。

スポーツ競技でなくても、誰かに喜んでもらえるようなことが、自分にもできるだろうか。

誰かの心を揺さぶることはできるだろうか。

「目黒さん、オリンピックで会おう」  
Goldに異動になって名刺を作ってもらった日から、道の先に燦然と輝いていた巨大な星だ。四年に一度の世界大会。五十六年ぶりの自国開催。「よろしくお願いします」

⑤ 今はその道が先の先まで、途切れることなく続いていくのを知っている。  
(大崎 梢「彼方のゴールド」による)

\*をつけた語句のへ注▽

- 統べる ― 一つにまとめて支配する。
- 派遣記録 ― 代表選手を選考する基準となる記録。
- 興奮のるつぽ ― 大勢の人が熱狂している状態やその場所。
- 石渡 ― 水泳競技を専門に取材する記者。
- メディアアブース ― 取材のために報道関係者が待機する場所。
- 異動 ― 仕事の配属先が変わること。
- 美濃部選手 ― メダルの獲得を期待されている競泳の選手。
- 燦然と ― きらきらと鮮やかに光り輝くさま。

問一 本文中に「DNAにそうすり込まれている。」とありますが、明日香がこのように考えたのはなぜですか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 挑戦し続ける選手の姿に、人は心を動かされるのだと実感したから。
- イ 進化する選手の様子から、自分も進化していくことを予感したから。
- ウ ひたむきに戦う選手に対し、声援を送り続ける人を見て共感したから。
- エ 全力で競技に向かう選手を見て、平凡な自分との差を痛感したから。

問二 本文中に「たくさんの顔や言葉が浮かんだ。」とありますが、次の対話は、このときの明日香の心情について話し合ったものです。あとの(一)、(二)の問いに答えなさい。

(Xさん) 明日香がこの場面で思い浮かべた、たくさんの顔や言葉はどんな人たちのものだったのかな。

(Yさん) おそらく、取材を通して出会った人たちのことを思い出しているのだと思うよ。その中でも、プロ野球選手、バスケのトレーナー、定食屋の店主などが、明日香の印象に残っている人なのだろうね。

(Xさん) Goldに異動したばかりのとき、明日香はスポーツに苦手

意識があったよね。それまでの明日香は、スポーツの世界ではどんな場面においても

A

されてしまうものだと捉えていたのかな。

(Yさん) そうだね。でもいろいろな人に取材をして話を聞くうちに、スポーツの勝負を通して

B

が、いつかどこかで生かされるのだと思えるようになったんだね。「負けて終わりではなく、道は続いていく」という言葉にそれが表れているね。

(一)  A にあてはまる言葉を、本文中から十一文字でそのまま抜き出して答えなさい。

(二)  B に入る適切な表現を考えて、十字以内で答えなさい。

問三 本文中に「あまりにも眩しくて疎外感すら覚えてしまったけれど、きつとちがう。」とありますが、次の文は、このときの明日香の心情について説明したものです。 にあてはまる適切な表現を考えて、十字以内で答えなさい。

勝利を手に入れた人は輝きを放ち、自分とは遠くかけ離れた存在だと感じてしまっていたが、本当はそうではなく、光の粒は自分の中にもきつとあり、自分にも  のだと希望を抱いている。

問四 本文中に「石渡は目を細め、『頑張つてね』とうなずいた。」とありますが、このときの石渡の心情を説明したものととして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア きつぱりと答える明日香の様子を意外に感じ、いぶかしく思っている。
- イ 明るく答える明日香の様子に眩しさを感じ、うらやましく思っている。
- ウ 控えめな返答をする明日香の様子に遠慮を感じ、寂しく思っている。
- エ しつかりと返答する明日香の様子に成長を感じ、嬉しく思っている。

問五 本文中に「今はその道が先の先まで、途切れることなく続いていくのを知っている。」とありますが、明日香がこのように思ったのはなぜですか。五十五字以内で答えなさい。

### 第三 問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① メールが届いたら、即座に返事をしないと落ち着かない。なぜなら返事をしないと、相手が下すであろう自分への評価——「自分のことを無視したり軽く見たりしているのではないか」——を先どりして不安にかられ、即レスを繰り返していく。

私たちのこうした行動や反応は、病理か何かのように論じられることもあるが、私はそうは思わない。独自の自己論や相互行為自体がもつ秩序を論じたE・ゴフマンをあげるまでもなく、他者に対する自己提示や自己の印象操作は、スマホやケータイを介したコミュニケーションに限らず、私たちが普段から自然に行っている営みだからだ。

では何が問題なのだろうか。

② それは至便さ、利便性の象徴でもある「速度」ではないか。

情報機器がもつ機能としての至便性である「速度」が、私たちの日常的なコミュニケーションや他者理解、他者への意思や感情の表明をめぐる「速度」にまで介入し、「この速度こそ最適だよ」といわんばかりに、私たちに強いてしまっているのだ。

「さくさくとつながる」ことは、便利なことだ。しかし「さくさくと相手を理解し、さくさくと自分を相手に提示すること」は、はたして素晴らしいことなのだろうか。

かつてケータイやスマホなど想像もできなかった時代、私たちは家にある固定電話で友達と遅くまで電話をしたはずだ。電話は、リビングや廊下など、家の者が誰でも使える場所にあった。だからこそ、私たちは友たちと秘密の談話をしたり、長電話をしたりするときは、家族にわからないように工夫しただろう。

どうしたら家族にばれないように、あの子と電話できるのかを考えた時間。なんとか電話でき、深夜にこっそり二人で親密な会話を楽しめたときの楽しさや達成感。こうした営みは、けっして「さくさく」進められるものではなく、つねになんらかの困難や障壁をとまなうし、時間やエネルギーがかかるものだ。

これはけっして昔を懐かしんだり、昔はよかったとノスタルジーを語ったりしているわけではない。他者とながら、他者を理解し、翻って自分を他者に提示する営みは、けっして「さくさく」達成されるものではなく、さまざまな困難や障壁、長い時間や多様なエネルギーがかかるものであり、私たちはスマホの「速度」に見合うように他者とはつながらないという事実を確認したいのだ。

スマホがもつ「速度」に関連して、さらに考えられること。それは私たちが言葉を介して他者と出会い、他者を理解していたときの

「時間」や「あいまいさ」「余裕」とでもいえる何かがある。その「速度」によって奪われたり、変質したりしているのではないか、ということだ。

大学の講義でよく学生に尋ねることがある。「あなたたちは、好きな人ができたとき、自分の思いを伝えようとして、まず何をしますか」と。別の尋ね方をするときもある。「好きな人ができて、あなたたちは自分の思いを伝えようとして、手紙を書くことはありませんか」と。多くの学生はこう答える。

「ケータイで自分の気持ちを伝えます」「まず電話（ケータイ）しますね」「手紙は書いたことはありません」等々。

「そうか、最近の若い人は手紙を書かなくなったな。私は大学生のとき、好きな人に一晩かけて便箋で一五枚書いたことがあるぞ」と、私は彼らの答えを受けて話します。この話にはオチがあり、一週間後、相手から便箋一〇枚くらいの返事が届く。「お友達でいきましょうね」と。

過去の恥ずかしい出来事を学生に披露したのではない。私が言いたいのは、「言葉を尽くして、思いや考えをまとめ、相手に語りだす」ということがもつ意味だ。

相手のことが好きだととして、自分はどうのように好きなのか。それをどのように言葉を使って表わせば、一番印象深く相手に伝えることができるのだろうか。

手紙を書いているとき、私たちはこうした自分の思いや言葉と格闘しているだろう。ただ、そのとき実感するのは、自分の思いを、いかに言葉で言い尽くすことが難しいのかということであり、同時に、相手がどのような人間であるのかを想像しつくすことの難しさでもある。いわば、自分と他者の間に横たわる「距離」や、他者理解の困難さや奥深さを思い知らされるのである。だからこそ、なんとか言葉を駆使し、自分の思いを相手に伝えようと、さらに奮起し、書くことにエネルギーを投入していくのだ。

アプリでもともと用意されたスタンプや顔文字で、自分の言いたいことや気持ちや伝わるのだろうか。伝わるとしても、そのやりとりによって、他者理解のどのような部分を達成できているのだろうか。

スマホに飼われながら、従来であれば多様な言葉をつくして相手に何かを伝えようとしたときに私たちが「ぎこんでいた」「生きられた時間」<sup>④</sup>、大切な「無駄」<sup>⑤</sup>を失ってしまったような気がするのである。

だから、スマホというツールに対する発想や認識を変えてみてはどうだろうか。

「多孔化した現実のなかで、他者や多様な現実と平易につながることができるとしての他者と、それだけでは簡単につながることなどではしなないツールとしてのスマホ」というふうな。

(好井 裕明「違和感から始まる社会学」による)

\*をつけた語句のA注V

即レス——電子メールの受信後、即座に返信すること。

E・ゴフマン——アメリカの社会学者。

至便——非常に便利なこと。

ノスタルジー——ここでは、昔を懐かしむ気持ちのこと。

スタンプ——メッセージアプリで、メッセージに添えたり、メッセージの代わりに送ったりするイラスト。

多孔化——ここでは、空間や時間に縛られずに、無数の情報に接続することができる状態にあること。

問一 本文中に「メールが届いたら、即座に返事をしないと落ち着かない。」とありますが、このように即座に返事をしないと落ち着かなくなるのは、なぜだと筆者は考えていますか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相手の都合を考えようとはせずに、反射的に対応をしてしまうから。
- イ 自分に対して相手が抱く印象を、勝手に想像して不安になるから。
- ウ 相手を軽視してしまっている自分自身の姿勢を、認めたくないから。
- エ 自分に対して相手が下しているであろう評価を、早く知りたいから。

問二 本文中に「それは至便さ、利便性の象徴でもある。『速度』ではないか。」とありますが、「それ」が指し示す内容を、三十字以内で答えなさい。

問三 本文中に「『さくさくと相手を理解し、さくさくと自分を相手に提示すること』は、はたして素晴らしいことなのだろうか。」とありますが、次の文章は、この問いかけに込められた筆者の考えを説明したものです。  
A にあてはまる言葉を五字で、  
B にあてはまる言葉を十字で、それぞれ本文中からそのまま抜き出して答えなさい。

スマホやケータイなどの情報機器は、私たちの日常に、「さくさく」と感じられる「速度」をもたらし続けてくれる一方で、さまざまな場面でその「速度」を私たちに押しつけている。しかし、私たちが行う他者理解や自己提示の営みには、なにかしらの A が存在するものであり、実際にはスマホの至便性につり合うように B ということを確認しておく必要がある。

問四 本文中に「大切な『無駄』」とありますが、筆者が述べる「大切な『無駄』」とはどのようなことですか。五十五字以内で説明しなさい。

問五 本文中に「スマホというツールに対する発想や認識を変えてみてはどうだろうか。」とありますが、筆者がこのように提案するのはなぜですか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア スマホは、至便性がある道具ではなく、かえって他者との関係を阻害するものだとして認識を変えて、使う場面や相手を選んでほしいから。
- イ スマホは、利便性や速度をもつ優れた道具だと再認識して、他者や多様な現実とつながる機会を数多く持つてほしいから。
- ウ スマホは、便利ではあるが万能なものではないと認識し直して、自己提示や他者理解の奥深さと向き合ってほしいから。
- エ スマホは、至便性が必要不可欠な道具であるという認識を捨て去って、手紙や電話の方が便利なのだと分かかってほしいから。

第四問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

それ、細工する人は、まづ斧うちにしたる木を取り重ねて、手斧うちをし(そもそも)

て、次に鉋をかけて、上を磨くにも、さめ木賊をつかひてのち、棕の葉に

て磨き侍るなり。連歌の地もまたしかなり。大荒目に取りなしてはかなふべ(連歌の基本もまた同様です)

(おおざつぱに言葉をつなげてはいけません)

からず。いかにも詞の上下をも置き換へ置き換へして、しかも、あらあら

しき詞などを、和らかなるに取り替へ取り替へ、いかにも執すべきものなり。(できるだけよくなるようにこだわらばいい)

当世の好士、あらあらしく耳なれぬことなどをめづらし顔に付け出だすこと(現代の連歌愛好家が)

は、斧うちのままにて置きたらんがごとし。

(「連歌比況集」による)

\*をつけた語句のへ注▽

上——表面。おもて。

さめ木賊——ものを磨くための道具。粗めに磨くために用いる。

棕の葉——ムクノキの葉。ものを磨く仕上げの際に用いる。

問一 本文中の「つかひて」を現代仮名遣いに改めなさい。

問二 本文中に「連歌の地もまたしかなり。」とありますが、次の文は、細工をする人が行うことと連歌の基本の似ている点をまとめたものです。あとの(一)、(二)の問いに答えなさい。

(一) (二)の問いに答えなさい。

細工をする際に、道具を次々と替えながら、木を切り出し、削って、

A いく過程と、連歌を詠む際に、言葉置き換えたり取り替え

B 過程が、こだわって作り上げるといふ点でよ

く似ている。

(一) A に入る適切な表現を考えて、五字以内で答えなさい。

(二) B にあてはまる言葉として、最も適切なものを、次の

A ー工から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 吟味しようとする
- イ 目新しくしようとする
- ウ 詰め込もうとする
- エ 大胆に用いようとする

問三 本文中に「斧うちのままにて置きたらんがごとし。」とありますが、筆者がこの表現を通して伝えたいことはどのようなことですか。最も適切

なものを、次のA ー工から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 使い古された技法にこだわらずに、新たな技法を探すのがよい。
- イ 手間をかけ、よいものを作ろうとする基本を忘れてはならない。
- ウ ものを作るときは、材料や道具を大切に扱わなければならない。
- エ 自身の苦勞を周囲に誇示しようとするのは、見苦しいことである。

第五問

次は、「どのようなときに国語の乱れを感じるか」という質問に対して、中学生の三人が述べた意見です。

〈Aさん〉 私は、敬語が正しく使われていないときに国語の乱れを感じ

ます。敬語は、堅苦しく感じるといふ人もいますが、相手を大切に思う気持ちを表すことができるので、正しく使いたいです。

〈Bさん〉 私は、会話の中で若者言葉が使われると、国語の乱れを感じることがあります。確かに同世代や仲間内では通じやすいのですが、相手や場面によってはふさわしくない言葉だと思います。

〈Cさん〉 私は、テレビの出演者などが外来語を多用した発言をしていると、国語が乱れていると感じます。効果的な使い方もありますが、多用されると分かりにくく感じます。

三人の意見の中で、あなたが注目した意見を一つ選び、その意見に対するあなたの考えと、そのように考えた理由を、百六十字～二百字で書きなさい。